

モンゴル草原における 経済開発と自然のコスト

小長谷有紀(国立民族学博物館)
2006. 11. 25@国連大学グロー
バルセミナー・金沢セッション

モンゴル国と中国内蒙古自治区



モンゴル国



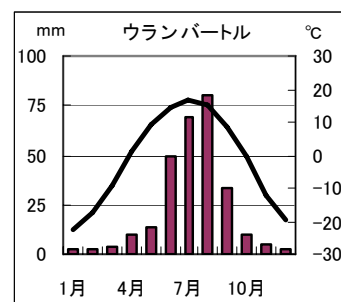
中国内蒙古自治区

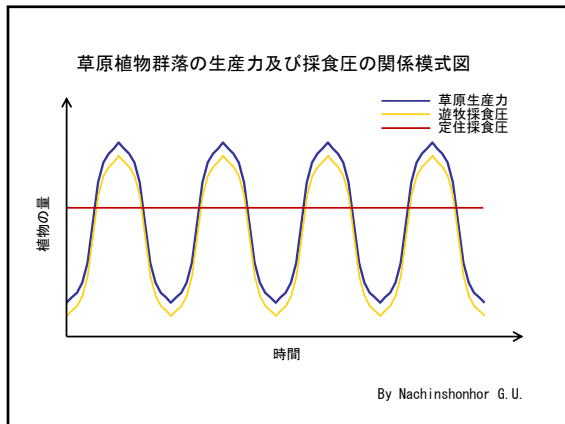


モンゴル高原の自然環境

- 1) 乾燥
年間降水量は少ない
年変動が激しい
- 2) 寒冷
年間平均気温は氷点下になる
いかに越冬するかが決め手となる

ウランバートルの気温と降水量





モンゴル高原の社会環境

1) オアシス社会の不在
自然堤防の後背湿地を使った小規模な農耕はおこなわれていたけれども・・・

2) 市場の不在
贅沢品との交換をおこなう隊商貿易はおこなわれていたけれども・・・

牧畜経営の3つのタイプ

地域	家畜の性別	商品化率	経営戦略
アフリカ	ほとんどメス	自給的	生存経済
西アジア	主としてメス	商品化	商品経済
モンゴル	メスと去勢オス	自給的	軍事経済

去勢オス畜を維持する牧畜文化

ウマ = 世界最速の乗り物
時速60キロメートル？

ウシ = 世界最強の曳き物
積載能力300キログラム？

ラクダ = 冬季のウマ・ウシ代わり

ヒツジ(ヤギ) = 歩く冷蔵庫
(ただし、19世紀まで)

家畜の雌雄比(20世紀初頭)

	成メス	子	成オス	雌雄比
ウマ	40	35	25	58:42
ラクダ	30	49	21	55:45
ウシ	45	40	15	65:35
ヒツジ	40	48	12	64:36

草原は軍需工場

1) メス家畜を育てる
生存経済を維持するための資源

2) 去勢オス家畜を育てる
軍事行動を実施するための資源
(ただし19世紀まで)

家畜の平和利用の時代

20世紀から
近代化＝社会主義化

- 1) 去勢オス家畜の商品化
- 2) 去勢オス家畜からの畜産物の商品化
- 3) メス家畜からの畜産物の商品化

遊牧の近代化

1. 社会主義的集団化
2. 畜産物の開発
3. 固定的施設の建設

内蒙古自治区における農耕化

- I ■ 林業地帯
- II ▨ 主農従牧地域
- III □ 主牧従農



図1 内蒙古自治区における土地利用

内蒙古自治区における都市化

- 首府フフホト
- 大規模な市
- 中規模な市
- △ 小規模な市
- × 鎮
- ▨ 条旗市域
- ▨ 伊克昭盟 (現在のオルドス市)



図2 内蒙古自治区における都市集落

人口密度の差

モンゴル国(2005)

1. 61人／平方キロメートル

中国内蒙古自治区(2005)

- 20.15人／平方キロメートル

モンゴル国と中国内蒙古自治区@近代

1911年	辛亥革命	
1921年	人民革命	
1924年	人民共和国宣言	
1939年		(連合自治政府)
1947年		自治区成立
1992年	国名変更	

モンゴル国と中国内蒙古自治区@近世

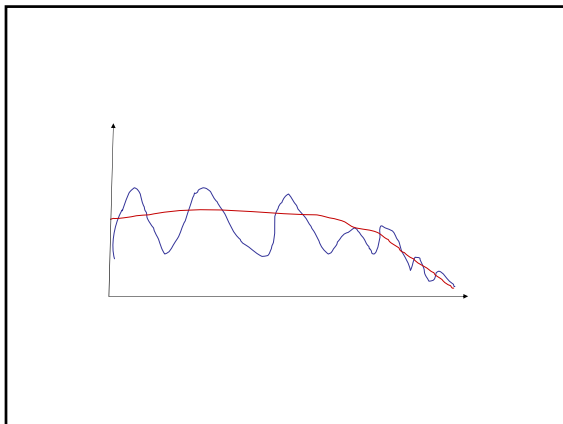
1634年 リグダンハーンが病死
内モンゴルが後金国の支配下に
1636年 後金国のホンタイジが大清国皇帝に

1688年 ガルダンが外モンゴルに侵入
1697年 外モンゴルが清朝の支配下に

砂漠化@中国内蒙古自治区

原因その1)
(過放牧) < 過人口

原因その2)
定着化 > (温暖化)



モンゴル国における土地法

1992年 新憲法で私有化を方向づける
1994年 土地法の制定

2002年 土地法の改正 +
土地私有化手続法の制定
2003年 土地法の施行

3つの権利

「所有権」・・・1人当たり0.07ヘクタール
家族で住む目的

「占有権」・・・経済的な活用を促進しつつ、
所有権を規制するための工夫

「利用権」・・・外国人でも可

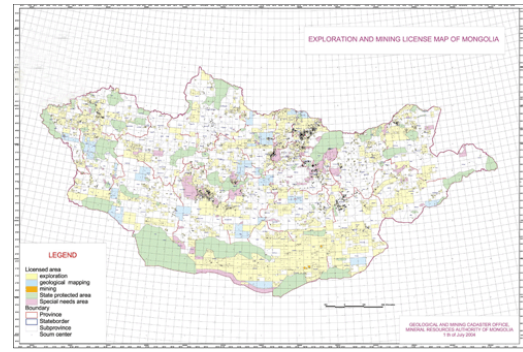
都市部の開発



草原部の開発

- 1) 鉱産資源開発
- 2) ツーリストキャンプ開発

鉱産資源開発



ツーリストキャンプ



ツーリストキャンプ



草原植物の草高と種多様性©藤田昇

